庵　原　地　区
カ　ル　テ

データについて

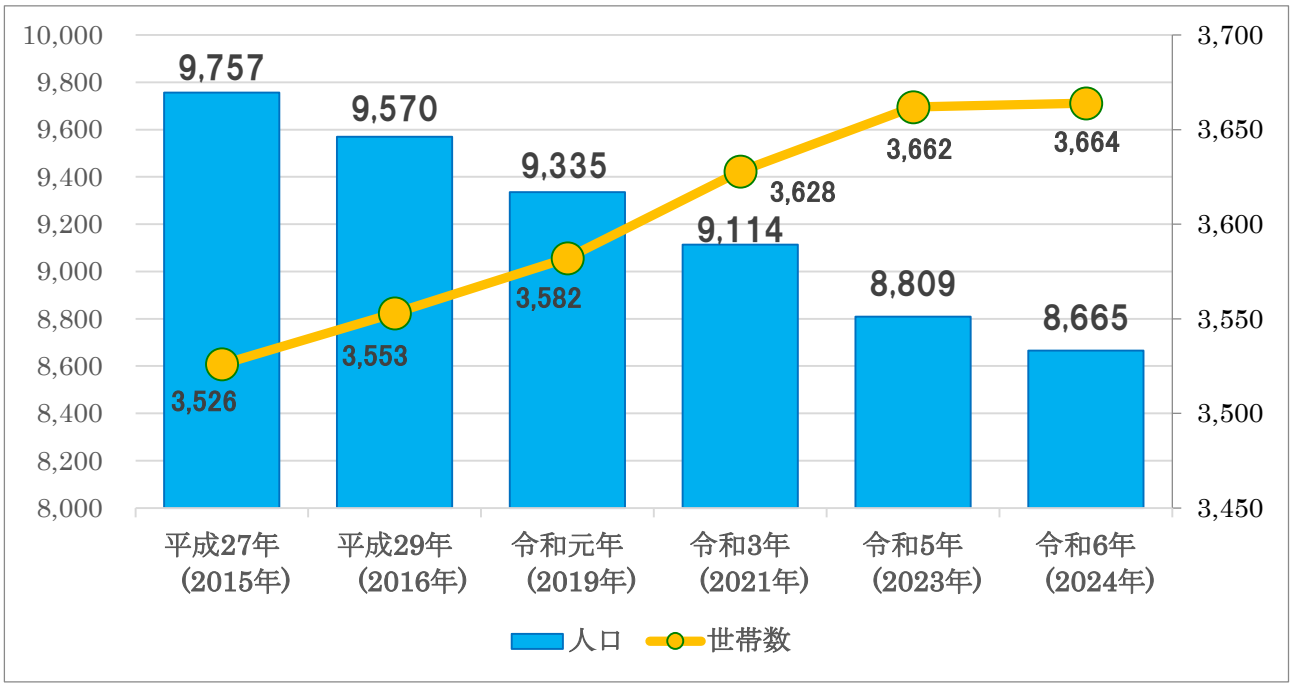
・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。

・住民基本台帳は各年の 3 月 31 日の数値、自治会加入数は各年の 4 月 1 日の数値です。

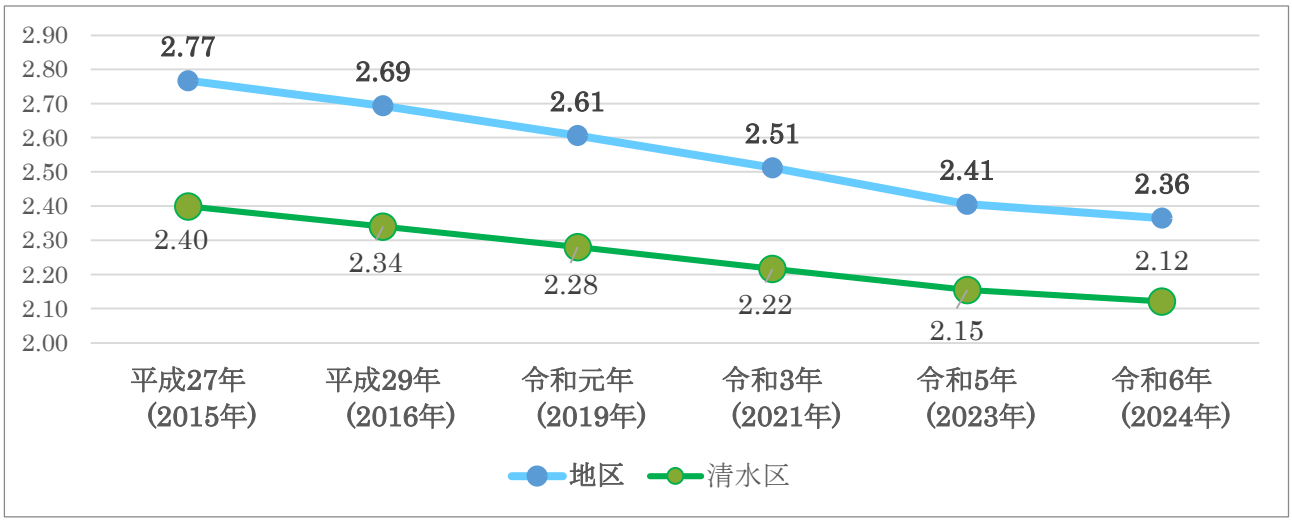
・町名は住民基本台帳を採用しているので、自治会名と一部異なる場合があります。

庵原地区の人口特性　令和 6 年 3 月　8，665 人　3，664 世帯　2.36 人/世帯

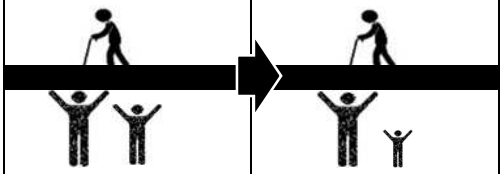
●人口・世帯数の推移



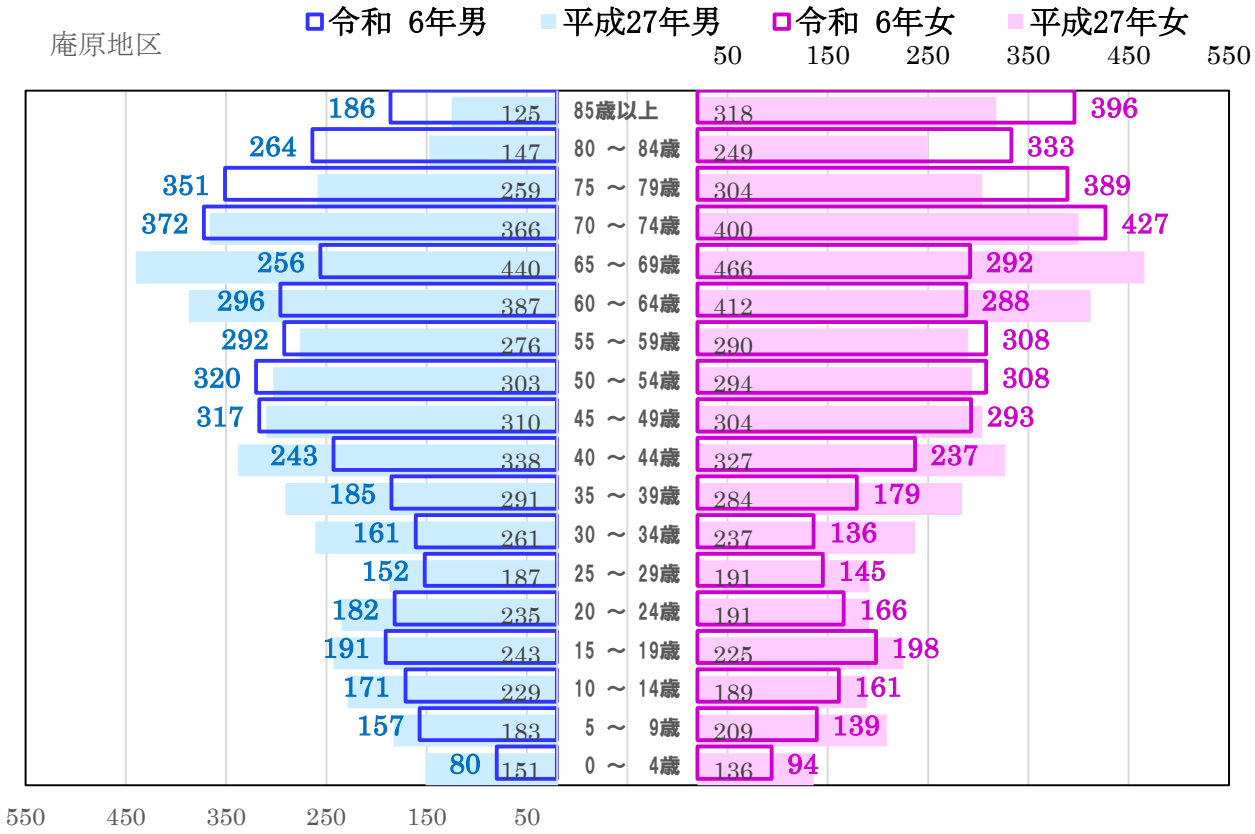
●一世帯当たりの人口推移



●65 歳以上の高齢者を支える生産年齢層（15-64 歳）

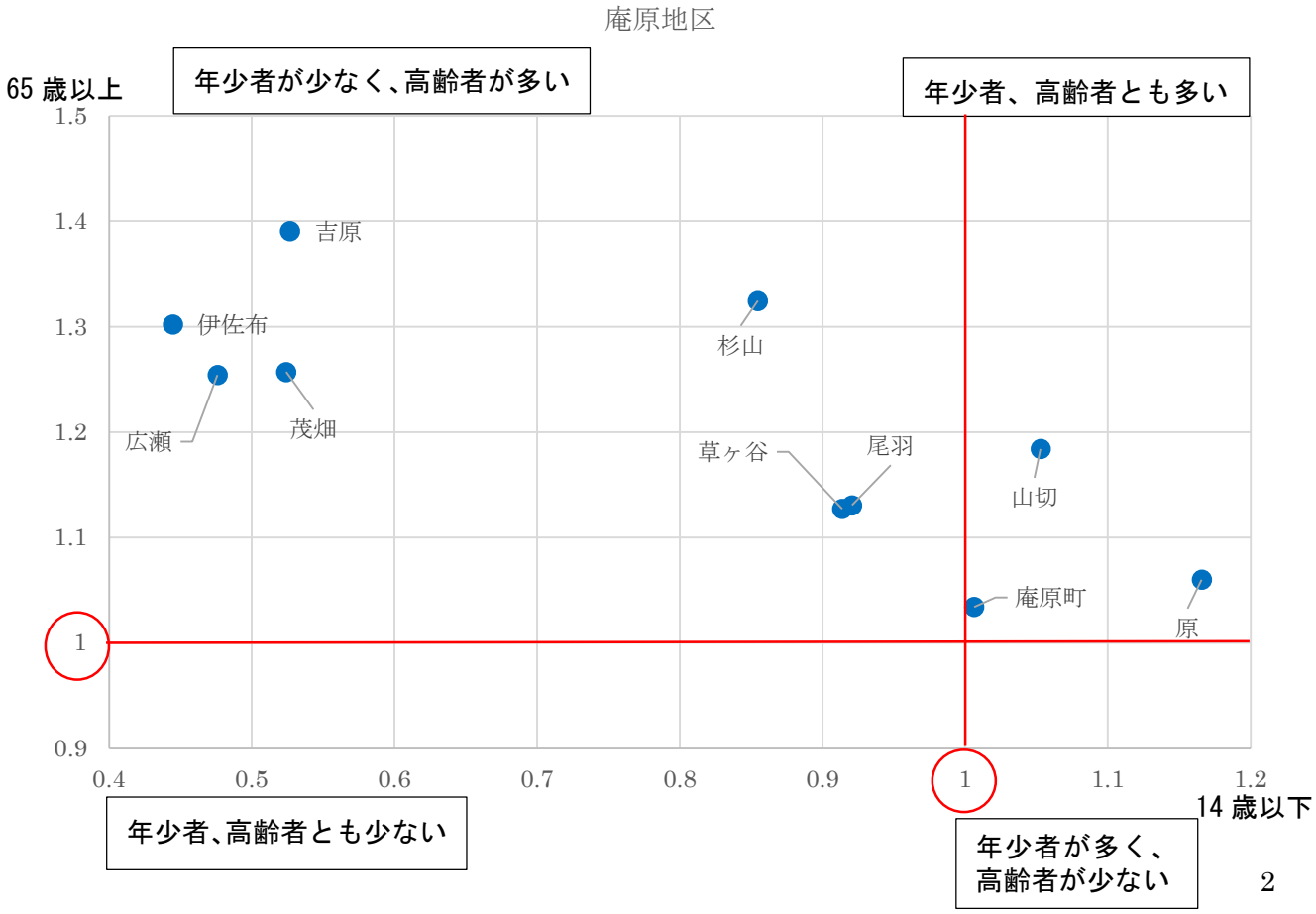
区　分	平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
地　　区	 1.82人	1.41人
静岡市	2.16 人	1.87 人
清水区	1.98 人	1.70 人

●人口ピラミッド【平成 27 年（2015 年）と令和 6 年（2024 年）の 5 歳階級別男女別構成】



●町別の 14 歳以下と 65 歳以上の割合分布（清水区の平均値を１とした場合）

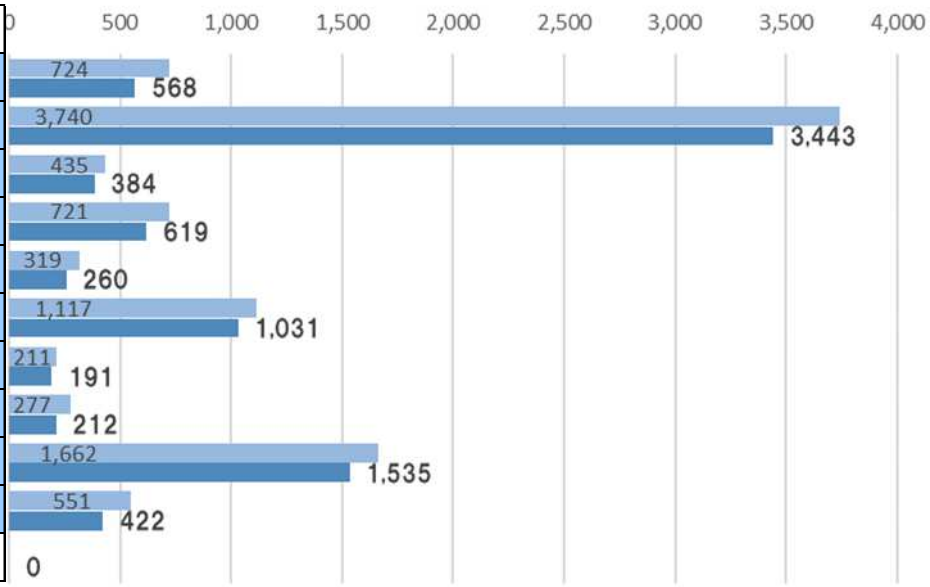
※年少者（14 歳以下）高齢者（65 歳以上）



●町別の伸び率と人口推移　【平成27年（2015年）と令和6年（2024年）の比較】

人口推移グラフ（上段平成27年　下段令和6年）

町名	伸び率
伊佐布	-21.5%
庵原町	-7.9%
尾羽	-11.7%
草ヶ谷	-14.1%
杉山	-18.5%
原	-7.7%
広瀬	-9.5%
茂畑	-23.5%
山切	-7.6%
吉原	-23.4%
新丹谷	0%

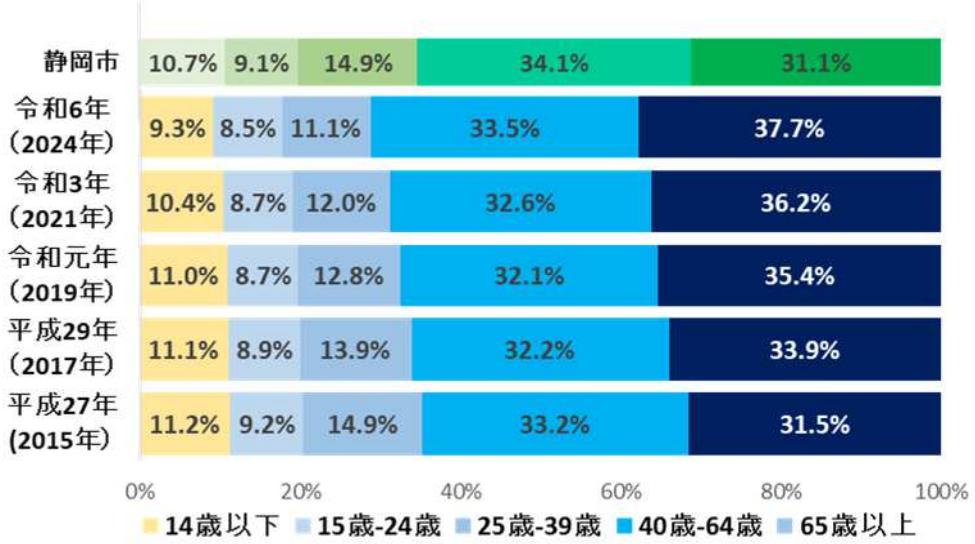


		人　口	
		平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
庵原地区	**−11.2%**	**9,757**	**8,665**
静岡市	−5.3%	713,564	675,610

注）「新丹谷」は平成 27 年 12 月に県営畑地帯総合整備事業の換地処分に伴い新設され、統計上の数値は 0 表示となっています。

●町別人口区分別割合

・年齢５区分別人口割合の推移



※15-24 歳は高校から社会人（大学修士課程含む）　25-39 歳は社会人（大学博士課程含む）

・令和６年人口３区分別：

市の割合より

青字　14 歳以下の割合が低い場合

赤字　65 歳以上、75 歳以上の割合が高い場合

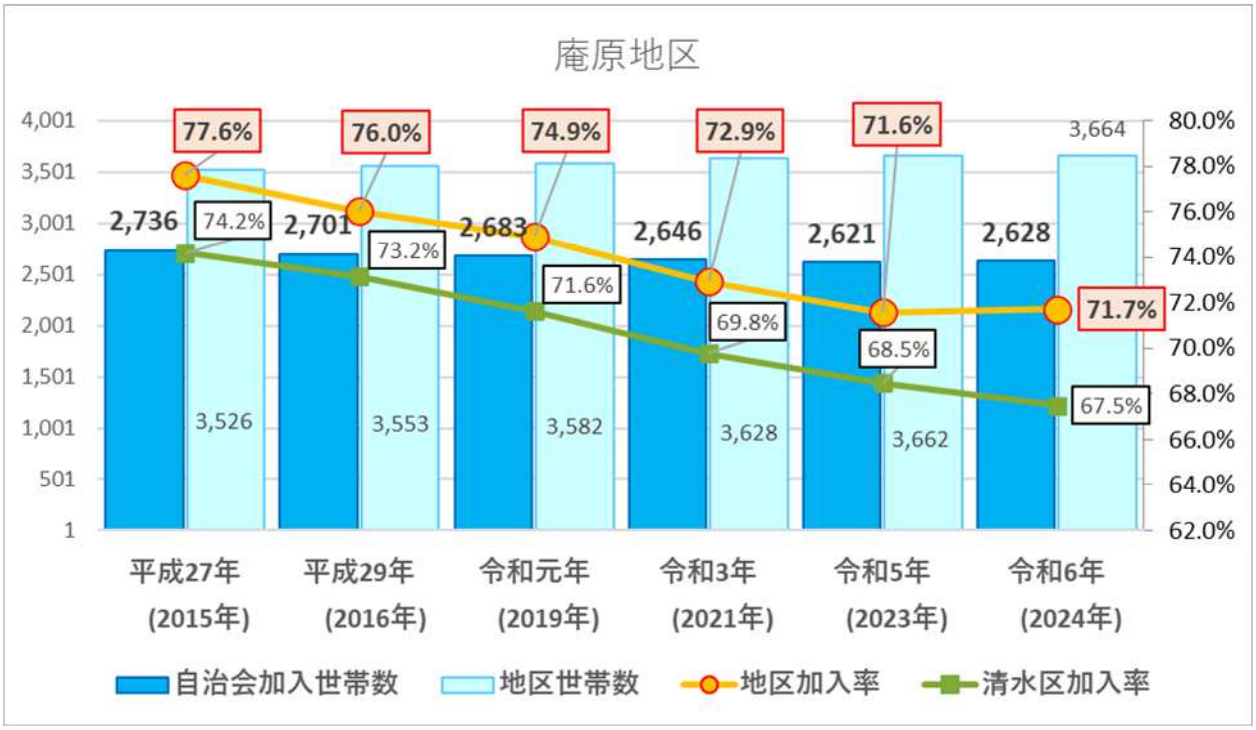
町　名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
伊佐布	4.4%	43.5%	24.5%
庵原町	10.0%	34.5%	21.1%
尾羽	9.1%	37.8%	22.7%
草ヶ谷	9.0%	37.6%	21.8%
杉山	8.5%	44.2%	26.2%
原	11.5%	35.4%	21.5%
広瀬	4.7%	41.9%	27.7%
茂畑	5.2%	42.0%	28.3%
山切	10.4%	39.5%	20.5%
吉原	5.2%	46.4%	27.0%
新丹谷	-	-	-
庵原地区	9.3%	37.7%	22.1%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

注）「新丹谷」はｐ3 の注）表記を参照してください。

●自治会加入状況

令和６年

加入率	地　区	71.7%	加入世帯数	2,628 世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	3,664 世帯



庵原地区コメント

・人口は減少傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数も減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。

・人口減少は全ての地区で見られ、少子高齢化の傾向が続いています。

・令和 6 年の 65 歳以上を1人支える生産年齢（15 歳から 64 歳）がで 1.4 人となり、若い世代の地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。

・さらに、自治会の加入率が区の値 68%より高い 72%ですが、年々減少傾向にあります。

庵　原　地　区

地名のゆかり

大和政権が確立されたころ、既に庵原には地方の権力の中心地としてのかなり大きな集落があり、「廬(いほ)原(はら)」と呼ばれていました。廬は「草木を結んで造った小さな家」を、原は「村落」や「平らで広い土地」を意味しますので、庵原川の扇状地に農作用の小屋が立ち並んでいたことから、廬原という地名が生じたと言われています。また、一説では、いばらが多く茂っていたからだとも言われています。いずれにしろ、庵原は古代の郷土の中心地だったのです。

県内では最も古い居住跡が発掘されている大乗寺遺跡は、縄文前期のものとして知られ、有名な三池平古墳は、山切、庵原の集落や遠く駿河湾をのぞむ丘陵にある前方後円墳で、その規模と朱塗りの石棺などの埋蔵物から、４世紀末の強い権力を持った首長のものと考えられています。

その後、大化の改新（646）で、廬原国は駿河国の郡となりましたが、その郡役所は大乗寺の丘にあったと言われています。また、天智天皇の２年（663）、廬原君臣(いおはらのきみおみ)が日本水軍を率いて海を渡り、白村江(はくすきのえ)に戦ったことも歴史上の事件として知られています。

三池平古墳から発掘された石棺

庵原山一乗寺

この地の領主、庵原氏が創建した禅林寺が庵原氏の衰頽と共に寺院も寂れ、廃寺同様になっていたものを、高僧、太原崇孚和尚が天文年中（1532～1554）に中興し、一乗寺（臨済宗）と改めたと伝えられています。

本尊は釈迦牟尼如来であるが、寺宝として桃山の壺をはじめ、開山禅師が使用した「茶ひき石臼」や開基朝比奈氏の長刀は有名です。寺の裏庭には中世の宝筐、五輪塔などが安置されています。

報　徳　社

みかんで名高い庵原の発展に、報徳社が大きな役割を果たしたことは、広く知られています。

報徳社は、江戸末期に「質素倹約と、徳をもって徳に報いる」という教えを農業振興に結び付けて、多くの農村を復興させた、相模（神奈川県）の篤農家二宮金次郎（尊徳）の起こしたものです。この教えは、江戸末期に庵原の柴田順作さんが二宮翁の教えを受けてから、庵原に広がり、尾羽報徳社に次いで、明治９年には杉山報徳社ができました。

報徳社は、村人が質素倹約して貯めた資金を無利息で産業資金として貸し付け、茶、みかんの栽培を奨励し、植林も行いました。こうした努力が次第に実り、みかんをはじめ、庵原の農産物が増大しました。

庵原小校庭の二宮尊徳像

三池平古墳

この「三池平古墳」は、昭和31年（1956）、原の原新策氏の蜜柑畑から偶然発見されました。

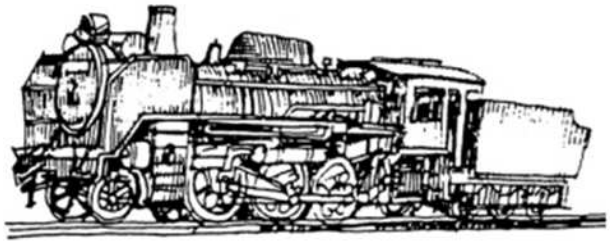
古墳の概要は、全長68mの前方後円墳。墳裾に敷石帯、墳丘上に壺形埴輪、葺石を配置し、大刀10口、剣15口、鉄鏃約100本が出土していて、地方の古墳としては武器類が目立ちました。百済で生産されていたサルポ（水田に水を引き入れる農具）も出土されています。

この貴重な古墳を史跡公園として活用するため、2009年に8000万円をかけて復元工事をしました。

庵原計便鉄道

明治42年、東海道本線や大日本軌道静岡支社（静岡鉄道）などが、沿線の町村を発展させているのを知った庵原村の西ヶ谷可吉衆議院議員は『庵原村発展のためには鉄道建設が必要である』と、村の有志に呼びかけ庵原軌道会社を資本金５万円で立ち上げました。

計画は進み、大正３年5月に江尻～金谷間が開通しました。起点の江尻駅は東海道本線江尻停車場の西に作られ、終点の金谷駅までは全長6.5km。金谷駅構内は広く、近くには小川製紙などがあって活気があり、金谷駅を利用して両河内村の人たちが木炭や手すきの紙などを背負子に背負い江尻まで運んでいました。



開業当初は物珍しさもあり乗客も多かったのですが、しばらくすると利用者が減り、結局大正５年４月に廃線が決まり、短い歴史を閉じました。

「吉原のお薬師さん 」

吉原にある善原寺の薬師堂にまつわるお話です。

慶長15年、駿府城に住んでいた徳川家康には大変可愛がっていた息女「よろず姫」がおりました。その「よろず姫」が眼の病にかかってしまい、お医者様でも治すことができませんでした。

家康の家来は大平に祀られている薬師如来が眼の病によく効くことを知り、家康に伝えました。家康は早速家来を連れて大平に向かいました。

しかし、大平までの道程は長く到着が遅くなるので、途中、吉原の街道沿いにある善原寺に立ち寄って和尚にこう言いました。

『和尚よ、どうか予の代わりに薬師如来にお祈りしてもらいたい。願いが叶ったら、薬師をこの寺に移し、お堂を建ててその功徳を広めよう』和尚は『私でよかったら一生懸命祈らせて頂きます』と家康と約束を交わしました。

それから和尚は、よろず姫の眼が一日も早くよくなるように、食事や寝る間も惜しんで、毎日遠い大平まで行って、一心にお祈りしました。

そしてひと月後、和尚の祈りが叶ってよろず姫の眼が不思議と日に日によくなったのです。

家康は大変喜んで、善原寺にお堂を建てて大平から薬師如来を移しました。

そして、家康が新しいお堂を訪れた時、乗ってきた馬をはじめ、持っていたもの全てをお寺に寄付しました。その時頂いた扇や馬につけてあった轡（くつわ）など、今でもお寺の宝物として大切に保存されています。

かたりべクラブ提供